

週刊ブロック通信

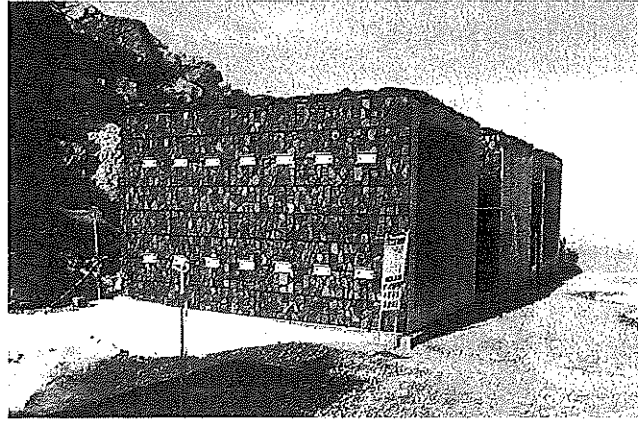
コンクリート
製品の業界紙
週刊ブロック通信

購読、広告の
お申し込みは

TEL 03-3431-2811
FAX 03-3578-3450
kjp@msj.biglobe.ne.jp

(株) 公共事業通信社

発行所 公共事業通信社 東京都港区新橋6-22-6 JOYOビル7F 電話 03(3431)2811(代)
編集発行人 黒澤隆寿 購読料1万円39,000円+税 前納 毎週月曜日発行 FAX 03(3578)3450



御嶽山にシエルター

高見澤 へりで山頂へ荷揚げ

の製品とした。また周囲の景観に配慮して、退避壕の側面には溶岩をスライスしたパネルを取り付けた。

高見澤(本社、長野県長野市緑町、社長 高見澤秀茂氏)はこのほど、御嶽山(長野県・岐阜県、標高3067m)に火山シエルター(退避壕)を納入した。2014年9月27日に起きた御嶽山の噴火は死者が58名を数える戦後最悪の火山噴火災害となった。退避壕は登山者が突発的な噴火に遭遇した時に、緊急的に身を隠す施設として地元の木曾町が整備を進めていたもの。

高見澤が製造・納入したのは、ボックス型のプレキャスト退避壕3基で、サイズは幅2.2×高さ2.0×奥行4.0mで壁厚は20cm。噴火時に飛来する恐れがある、こぶし大(10cm)の噴石が多数衝突しても耐えられる強度を有しており、1基あたり約30名が退避できる。退避壕の設置場所は、御嶽山の山頂直下の標高約3058m付近。へりコプターで御嶽山山頂まで荷揚げするため、同社では航空会社と協議を重ねて荷揚げする重量を算出、上下2分割

施工作業は昨年7月に開始。御嶽山山麓にあるロープウェイ乗り場近くに部材を仮置きし、へりコプターを使い一気に山頂まで荷揚げした。当初、火口から1km圏内は入山規制が行われていたが、噴火からちょうど4年が経過した9月27日に解除となり、製品の組み立てを開始した。3000mを超える山の気象条件は地上に比べて非常に厳しく、天気も目まぐるしく変わるため作業は苦勞の連続だったという。ただ今回の工事には遺族を含め多くの関係者の思いが込められており、強い気持ちで作業を続け9月末には竣工した。

同社では「国内には安全対策や整備が遅れている火山は多い。今回の経験を踏まえ、安全・安心の確保に協力できればと考えている」とコメントしている。

建設業界が4月

共同団体設立へ

特定技能外国人材を確保

改正出入国管理法に基づき創設する新たな在留資格制度「特定技能」の導入に向け、建設業界団体等でつくる「共同団体」が4月1

日発足する。

外国人材を確保する体制を業界横断的に構築する狙いがあり、受け入れ企業に対しては求人情報の現地機関への提供などを実施。外国人材には入国後の研修実施や転職支援、母国語による相談対応等を実施する計画。改正入管法に基づき新在留資格制度「特定技能」の受け入れ対象職種(調整中含む)は次の通り。

- 【19年度】型枠施工▽左官▽コンクリート圧送▽トンネル推進工
- ▽建設機械施工▽土工▽屋根ふき
- ▽電気通信▽鉄筋施工▽鉄筋継ぎ
- 手▽内装仕上げ・表装【20年度以降】▽外壁仕上げ▽プレストレストコンクリート▽基礎工▽ウエールポイント施工▽標識・路面標示
- ▽のり面工▽建築板金▽電気工事
- ▽送電架線施工▽溶接▽ダクト▽鉄骨▽海洋土木工▽建設塗装▽防水▽保温保冷▽ウレタン断熱▽造園▽さく井▽シャッター・ドア施工【検討中】建築大工▽とび▽運動施設▽切断せん孔▽冷凍空調▽タイヤ張り▽ガラス施工。

【今月の論説】
いま企業に求められる「案を
するための勤勉さ」
武井 厚

展望局長
後を
石原 関東地方整備局
が講演
全コン関東支部など

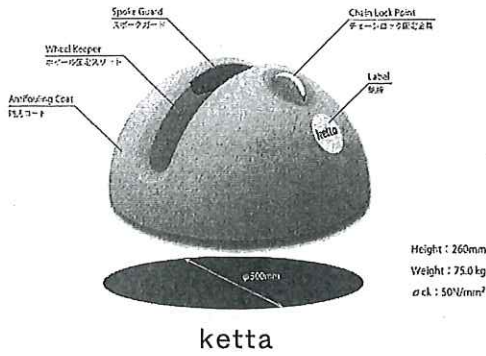
建築・建材展2019開催

P Ca 製自転車スタンド

昭和コン ketta を開発

昭和コンクリート工業(本社、岐阜県岐阜市香蘭一、社長 村瀬大一郎氏)は、プレキャストコンクリート製の自転車スタンド「P Ca (ケッタ)」を開発した。経営戦略の一環で、コンクリートとデザインの融合を目指し、人々の生活に密着した身近で親しみのあるコンクリート製品を発信し、提供し続けていくきっかけとする狙いがある。

ケッタとは尾張・美濃地方の方言で自転車のこと。岐阜県の「モノづくり商品開発支援事業」を活用して開発した。モノづくり商品開発支援事業は、県内製造業に挑戦する機会を提供し、企業のビジネスモデル改革や体質転換の促進、国内外に発信できる商品ラッシュの強化を図る制度。県が約1年間、デザイナーと商品開発をするための費用を負担するため、コストを抑えながら新商品開発ができるメリットがある。



ketta



タイヤを挟むと自転車が自立する

同社ではデザイン性の高いコンクリート製品の開発に当たり、ロードバイクをはじめとしてスタン

ドのない自転車が増えており、自転車スタンドのニーズが高まっている点に着目。香川大学教授でイフジデザインスタジオ代表の井藤隆志氏にデザインを依頼した。ケッタは直径500mm×高さ260mmの半球形をしたプレキャストコンクリート製自転車スタンド。ロードバイクやマウンテンバイクなど様々な自転車に対応し、表面には防汚コート処理を施した。シンプルで安定感と安心感のある馴染みやすいデザインが特長で、センターに設けたホイール固定スリットにタイヤを挟むと自転車が自立し、接触や風による転倒を防止。スリット上部に設けたゴム製スポークガードが、スポークの傷付きをガードする。スリット脇に設けたステンレス製のチェーンロック用金具と「Ketta」と表示した銘板がアクセントになっている。銘板にシンボルマークを表示してオリジナルデザインとする事も可能で、スマホでQRコードを読み取るとサイクリングロードや観光名所スタンプリーのマップが表示される等、ケッタを起点に遊びの要素を取り入れる事もできる。

75kgと十分な重量があるので、アンカーなどで地面に固定する必要がなく盗難の懸念もない。鋼製の自転車スタンドに比べ腐食に強く、屋外のあらゆる場所で利用可能。既に河川環境楽園(岐阜県

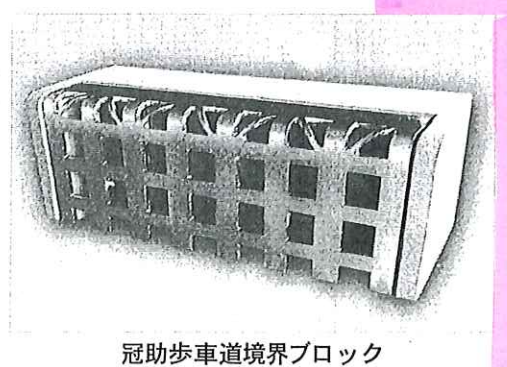
各務原市)に3基を設置済で今後新たに百年公園(岐阜県関市)に6基を設置する予定。

冠助歩車道

境界ブロック

冠水対策製品研究会

冠水対策製品研究会(会長 金子昌裕氏)は、落ち葉冠水防止ふた「冠助」の新製品として「冠助歩車道境界ブロック」を開発した。これにより集水桝がない場所でも、冠助の施工が可能になった。



冠助歩車道境界ブロック

冠助は集中豪雨等によって起きるます蓋の冠水を防止するため、縁石部に排水孔を設けた鋼板カバープレートを取り付けて排水機能を高めたL形です。落ち葉やゴミなどがグレーチングに堆積しても、縁石部のカバープレートが安定した排水性能を維持して道路冠水を防止する。新たに開発した冠助歩車道境界ブロックは、L形タイプの冠助から縁石部を分離。境界ブロック立面部に取り付けた排水孔付の鋼板カバープレートで集水し、下部の側溝へ排水する仕組み。集水桝がなく、歩車道ブロックの水抜きから歩道に敷設した側溝へ雨水排水を行うような場所は落ち葉やゴミが堆積しやすく、多少の雨でも道路冠水が起きやすい。しかし「冠助歩車道境界ブロック」はブロックの前面全体で排水するので、落ち葉等が堆積しても安定

した排水性能を維持して道路冠水を防止する。また、集水桝は敷設されているが水はけが悪い場所では、縁石を「冠助歩車道境界ブロック」に交換して、排水性能の向上を図ることも可能。現場の状況に合わせて、現場打ち用やエプロン現場打ち用もラインアップした。

冠水対策製品研究会の会員社は、▽カワグレ▽北村コンクリート工業▽ネプラス工法全国会▽日本ステップ工業の4者。

人事・機構改革

太平洋セメント

(3月11日)

▽セメント事業本部技術グループリーダー、同部営業部営業推進グループリーダー 中村藤雄▽出向 太平洋コンサルタント(セメント事業本部営業部技術グループリーダー) 寺田了司